

ヤマサちくわ株式会社

愛知県豊橋市

需要獲得
ものづくり

ターゲットを絞った海外展開で顧客を獲得 地域資源を活かした地域経済活性化の取組

1827年(文政10年)の創業以来190余年、豊橋を中心にちくわなどの練り物を製造・販売してきた老舗ちくわメーカー。一見本物に見える金のかたまりも、地金が鉛では決して本物とはいえず、「鉛は金に変わらない」を基本精神としている。素材の厳選・安定確保から物流までを同社で担い「昔も今も変わらぬ美味さ」を追求し地域にも愛されている。また、海外展開においても、味と品質へのこだわり、顧客接点の維持・強化の観点から、アジアの百貨店等を中心とした直接輸出をメインに事業展開している。

所在地 愛知県豊橋市下地町橋口30-1
電話/FAX 0532-52-7139 / 0532-56-2789
URL <https://yamasa.chikuwa.co.jp/>
代表者 代表取締役社長 佐藤 元英

創業 1827年
資本金 10,000万円
従業員数 300人



海外展開でも現場主義で顧客との接点を大事にし適正価格で販売

海外市場での新たな顧客やファン作りのため、積極的な催事販売による現場主義を実践。商品価値を適正価格で評価いただけるアッパーミドル層をターゲットとして、海外の百貨店などに輸出している。輸出にあたっては、品質管理の観点から直接輸出が中心。さらには、販売も現地販売店任せにせず、顧客との顔が見える関係作りにこだわり、消費者のニーズを重視した商品開発に繋げている。また、コロナ禍による非対面ビジネスにも対応すべく、これまで培ってきた顧客接点を活かし、越境EC事業なども展開している。



海外催事風景

地域企業とともに地域資源を活かして地域発展に尽力

豊橋を中心とした三河地域で全国生産額の約6割を生産する「青じそ」の商品開発を目的として、地元企業が結成した「青じそ加工研究会」に参画。練り製品と相性抜群の調味料「青じそオリーブオイル」を商品化。また、すり身の原料となるエソの未利用部分は廃棄などされていたが、これを有効活用し、地元老舗醤油メーカーのイチビキと「えそ醤油」を共同開発し商品化。このように、地域資源を活用した商品開発を行うほか、直営店では、東三河の名産品を取り揃えて販売するなど、地域経済活性化にも貢献している。



青じそオリーブオイル

地域の“ご縁”を紡いだ事業展開ならびに地域資源の活用による付加価値の向上

豊橋鉄道の地域シンボルである路面電車「走る屋台」として親しまれる「おでんしゃ」で、おでんセットを提供。さらに、「おでんしゃ」をモチーフにしたパッケージの「おでんしゃセット」を展開し、相乗効果を図る。豊橋市がNHK連続テレビ小説「エール」の舞台に決定したことを記念して、主人公が愛したセット商品を企画・販売。さらに、「エール」で縁が深まった福島県の特産品とコラボした「絆おでん」の商品化、福島県の米焼酎会社「ねっか」の米焼酎をPB商品化するなど関係性を深めている。



おでんしゃ専用おでん

需要獲得

ものづくり